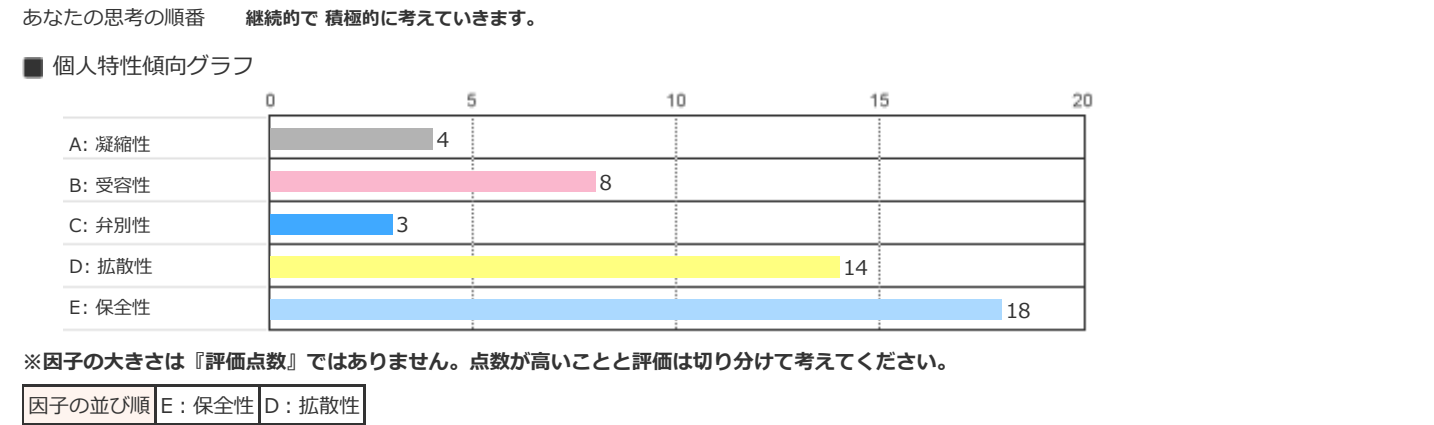


1

あなたはこんな風に思考を進める傾向があるようです



まず、現状を継続しつつ、改善を積み上げていくことができます。良いものを残しつつ、悪いものを改善しながら目標を達成していきます。興味のあることを極めることに積極的です。

次に、積極的にアイデアを出しながら動いていくことができます。人と違うことを思いついたら自ら行動していくことでそれを実現しようとします。興味のあることを実現するのに積極的です。

2

業務において陥りやすい状態

※『陥りやすい状態』は、自分の行動がネガティブになっているときの表現です。ストレス値と併せて見て、よりネガティブな状態になっているときには気をつけましょう。

相手に指示を出す場合、まず、自分がある程度内容を把握するまでは業務を人に任せることができず抱え込んでしまいがちです。順調に進んでいる場合でも心配になりやすく、何度も確認してしまいます。

次に、『なる早』、『ざっくり』といった概要しか伝えないことが多く、人に指示する前に自分の都合で始めてしまい、説明は後にしてしまう場合があります。興味を持つものによって成果の差が大きく、結果が安定しない傾向があります。

3

FFS理論について

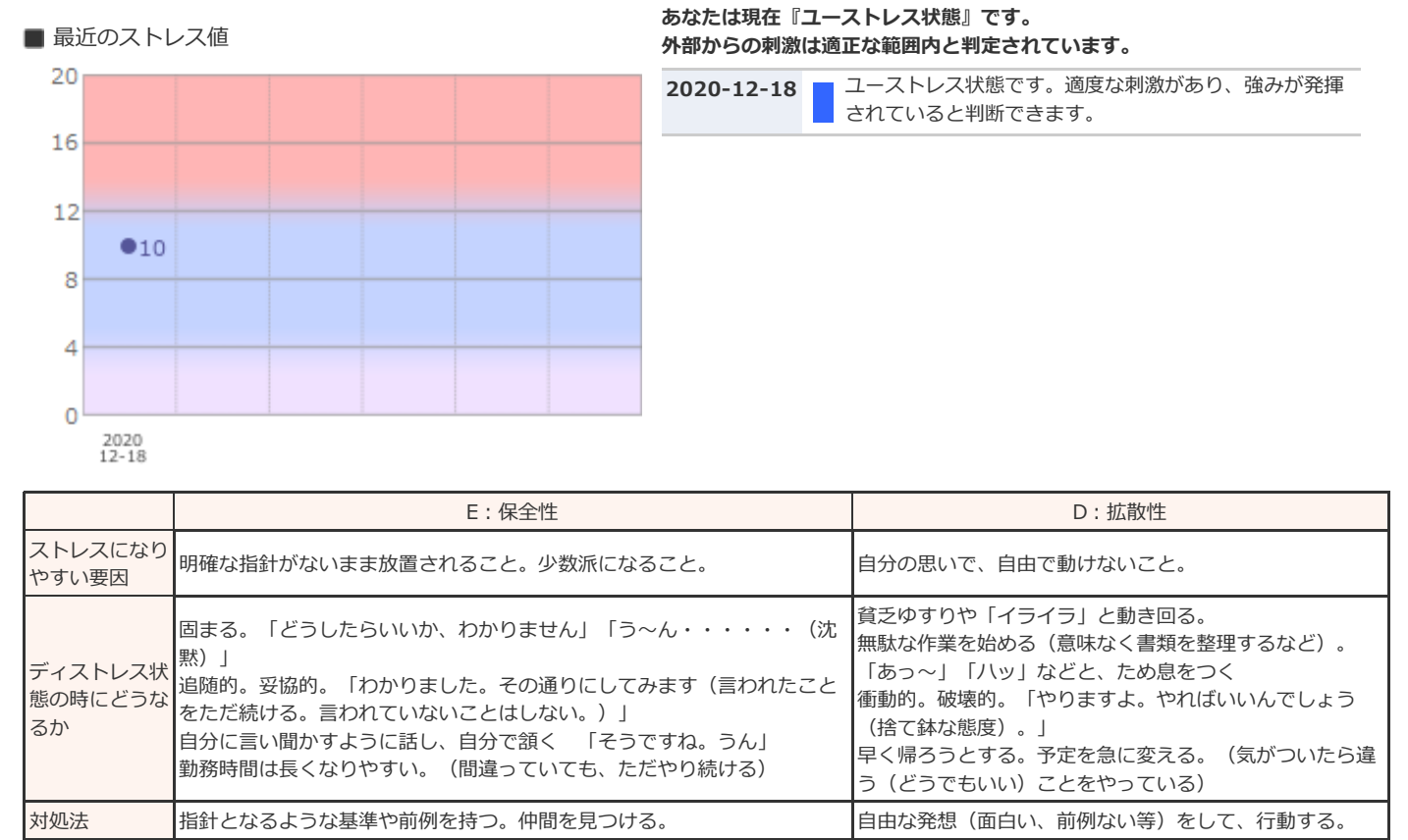
■ 5つの因子の意味

FFS理論（Five-Factors and Stress）理論では、個々人の思考行動特性（個性）を5つの因子とストレスで表します。個々の因子は0～20で表されます。値の大きさよりもバランス（どの順番で大きいか）が重要になります。

	A：凝縮性	B：受容性	C：弁別性	D：拡散性	E：保全性
力の源泉	固定・強化する（価値観を固めていく）力	無条件に受け入れる力	（自分にとって都合よく）白黒ははっきり分ける力	外部に向かって動いていく力	現状を維持改善していく力
判断軸	「自分の価値観上」正しいか、正しくないか	よいか、悪いか	適合しているか、していないか	好きか、嫌いか	好きか、嫌いか
キーワード	正義、権威性、責任感、義務感、批判的、偏執固執	貢献、保護的、共感、愛情、過保護	都合いい、合理的、事実、は、判別的、現実的	挑戦、奔放性、外向性、解放性、大胆、野心、分裂	安全、内向性、慎重、敏感、几帳面、順応、劣等感
口癖	「でなければならぬ」「当然」「すべきである」「あってはならない」	「なるほど」（頷きながら）「そうか～」「まあ、何とかしよう」「まかせなさい」「心配しなくていい」	「合理的」「論理的には」「具体的には」「データは」「因果関係は」	「とりえず」「まあいいか」「面白い」「適当に」「アバウト」	「このまま様子を見ましよう」「無難」「安全に」「確実に出来ることから」「他はどうなの」

4

最近のストレス状態と陥りやすいくせ



5

キャリアアップのためのアドバイス

まず、周囲を気にするが故、「皆が求めている人材」を自分に投影して、“本当の自己の強み”を理解していないケースがあります。まずは自己理解し、「積み上げる」ことが重要です。あるジャンルの専門性を極めることも大切です。

次に、「物事の真因」をつかまないまま転々とすることで、中途半端な体験しかしていない状態になる危険性があります。一つの真理に到達することで、他の様々な体験も「概念化」「普遍化」出来る能力を獲得できるでしょう。

6

とりやすい学習スタイル

新たな情報に対して、全体的な範囲を理解しようとします。その中で、基本的な内容から順を追って確認していこうとします。範囲をつかめないまま新しいことをやろうとすると、今までのやり方で何とかしてしまおうとします。自ら学習したことと、それを使った成果を都度確認しているような状態であれば学習効果は高まります。

どちらかといえば概念的に説明されるより、現実的な事例や現象から理解を進めます。